

サプライチェーンマネジメント

関連するマテリアリティ



地域社会と共に

取り組み

- 公正、公平で透明性のある取引
- 取引先との強固なパートナーシップの構築
- 持続可能な天然ゴムの調達

基本的な考え方

社会に対して価値を提供し続ける企業であるためには、取引先との強固なパートナーシップが欠かせません。また、企業の社会的責任の範囲は、自社だけでなく、事業活動に必要な原材料や物品・サービスを調達する取引先にまで広がっています。中でも当社事業のサプライチェーンの上流は、新興国・途上国の取引先も多いため、社会・環境視点での評価も重要であると認識しています。こうした状況を踏まえ、横浜ゴムは、「公正かつ公平な取引を基本に取引先との信頼関係を構築し、共存共栄と相互発展を図る」という調達スローガンのもと「調達基本方針」を宣言し、従業員が取るべき行動を「横浜ゴムグループ行動指針」で定めています。

CSR調達の取り組み

CSR調達ガイドライン

<https://www.y-yokohama.com/csr/report/partner/pdf/guideline202210.pdf>

CSR調達ガイドライン

バリューチェーンにおけるCSR活動推進のため、横浜ゴムでは「YOKOHAMAグリーン調達ガイドライン」「CSR調達ガイドライン」など各種ガイドラインを策定し、社内および取引先に対して、説明会を通じて当社の方針・理念を共有してきました。また2012年には国連グローバル・コンパクトに参加し、グローバルでの取り組みを推進しています。2022年には社会情勢の変化などを踏まえて全社環境方針の見直しを行い、併せてCSR調達ガイドラインも、環境および人権尊重の取り組みをより強化した形へと改訂しました。

サプライヤーの環境評価

横浜ゴムグループの主要製品に使われる原材料は、各種合成ゴムをはじめ石油化学製品(化学品)が多く、その製造過程では、環境汚染や、地域住民の生活にマイナスの影響を及ぼす可能性があります。原料の安定的な調達という観点、倫理的な観点か

ら、サプライヤーの環境評価に重点的に取り組んでいます。新規取引先を含めた取引先に対してグリーン調達ガイドラインの遵守をお願いし、定期的なCSRセルフチェックの実行と結果報告を求めています。

サプライヤーの社会性評価

横浜ゴムグループの製造工場がある地域住民との円滑なコミュニケーションや公正な取引の継続は、持続的な事業展開のために必要不可欠なものです。また、調達に関わる方々が安全に働ける労働環境の確保や人権の尊重も重要な課題です。取引先に対しては、上記の観点から当社グループの策定する行動規範や指針に沿っているかの評価を行い、著しい社会的影響がある場合は是正をお願いするなど、改善に向けた取り組みを進めています。また、人権・環境・社会への影響を配慮したグローバル調達に取り組み、紛争地帯の鉱物を意図的に使用しないよう留意しています。

▶ サプライヤーの環境評価の結果

新規取引開始時の環境影響評価

- ・新規に採用する原材料が各種環境規制に適合していることの確認
- ・CSRセルフチェックにおける環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証取得の状況、環境負荷物質、温室効果ガスなどの管理状況の確認

2022年度は、日本国内新規発注先58社すべてにおいて、環境影響を及ぼすサプライヤーはありませんでした。

▶ サプライヤーの社会性評価の結果

新規取引開始時の社会影響評価

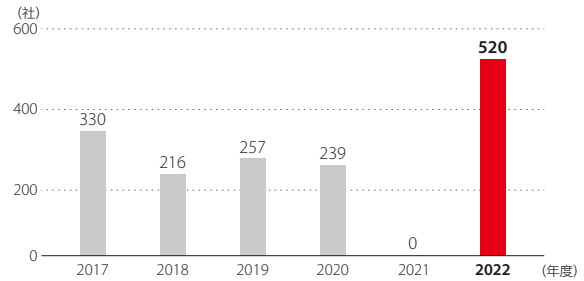
- ・新規に採用する原材料において、公正・公平な取引の仕組み、外部コミュニケーションの仕組みの確認
- ・CSRセルフチェックにおける労働条件、人権尊重の取り組み、紛争鉱物使用の有無の確認

2022年度は、日本国内新規発注先58社すべてにおいて、社会影響を及ぼすサプライヤーはありませんでした。

CSR取引先説明会の開催

サステナビリティに関する理念・方針の共有を目的として、取引先にCSR説明会を実施しています。2022年は初めてのリモート形式でのCSR取引先説明会実施に向けてシステム整備に取り組み、ウェビナーにて4回開催し、520社が参加しました。また、天然ゴムサプライヤーに対しては、サプライヤーズデイを開催し、持続可能な天然ゴムの調達方針を説明した上でCSRへの協力を呼びかけました。同時に海外拠点のサプライヤーに対しても同様の活動を開始すべく準備を進めています。

CSR取引先説明会参加社数



持続可能な天然ゴムの調達方針

https://www.y-yokohama.com/csr/pdf/SNR2.0_Japanese.pdf

持続可能な天然ゴム調達の推進

持続可能な天然ゴムの調達方針

天然ゴムは横浜ゴムグループの原料使用量の約20%を占めており、お客さまに当社製品を絶やすことなく提供するためには欠かせない原料です。

横浜ゴムは天然ゴムを持続可能な資源にするため、持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)^{*1}のタイヤ産業プロジェクト(TIP)^{*2}が主導して2018年に立ち上げた、持続可能な天然ゴムのためのプラットフォーム(GPSNR)^{*3}に創設メンバーとして参画するとともに、同年10月に独自に「持続可能な天然ゴムの調達方針」を策定しました。タイの天然ゴム加工会社(YTRC: Y.T. Rubber Co., Ltd.)では、発注契約書に、環境保護や人権などコンプライアンスなどの条項を入れ、天然ゴム農園でのCSR普及に努めています。

横浜ゴムグループでは、「持続可能な天然ゴムの調達方針」に基づき、トレーサビリティ構築、人権・労働・環境保護などに取り組んでいます。

^{*}1 WBCSD: World Business Council for Sustainable Developmentの略称

^{*}2 TIP: Tire Industry Projectの略称

^{*}3 GPSNR: Global Platform for Sustainable Natural Rubberの略称

天然ゴム農家向けセミナーの開催

横浜ゴムでは持続可能な天然ゴムの調達活動の一環として、天然ゴムサプライヤーを対象としたセミナーや、「サプライヤーズ・デー」など、各国で多くの交流イベントを実施しています。

タイで天然ゴム加工を行っているYTRCでは、スモールホルダーを継続的に支援するため、タイの農業・協同組合省管轄下にあるタイ天然ゴム公社(RAOT)と共同で、天然ゴムの品質向上に向けたセミナーイベントを定期的実施しています。2022年12月のセミナーイベントでは、スラタニ地区の50戸の農家に参加いただき、RAOTの知見を活かした肥料を1農家あたり250kg無償提供しました。また、参加した天然ゴム農家には、天然ゴム物性や生産性についての追跡調査にも協力していただいています。



イベントに参加した天然ゴム農家の方々

サプライヤー問い合わせ窓口の設置

取引先に対しては、調達・営業部門のコンプライアンス推進責任者が、「取引相談窓口」などを通して、取引に関する苦情や相談を吸い上げています。苦情が申し立てられた場合、コンプライアンス推進室が事実確認を行い、調達部門・営業部門と協議し必要な対策を講じています。

また、横浜ゴムグループは、「一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構(JaCER)」に加入しており、同機構の苦情通報窓口を通じて横浜ゴムグループの国内外のすべてのステークホルダーの皆さまの苦情を受け付け、適切な対応を行う体制を整備しています。

^{*} 詳細は「人権の尊重」(P.42)「コンプライアンス」(P.68)

今後の課題と対応策

横浜ゴムグループでは、公正かつ公平な取引を基本にサプライチェーンの取引先の皆さまとの信頼関係を構築し、連携・共存共栄を進めてきました。今後は、海外子会社ともグローバルな

連携を深め、グループ一体となったパートナーシップの構築を進めていきます。

地域社会との共生

関連するマテリアリティ



地域社会と共に

取り組み

- 地域社会での生物多様性保全活動や医療・教育等の支援
- 地域社会での防災・災害支援活動
- YOKOHAMAまごころ基金とNPOとの協働

基本的な考え方

横浜ゴムグループでは、「横浜ゴムグループ行動指針」において「地域社会との共存共栄を図ります」と宣言し、社会の一員であることを忘れず、社会との共存共栄を図り、ステークホルダーとの信頼関係を構築すること、従業員の社会貢献活動を支援し、従業員が積極的に社会貢献活動に参加する社風を形成することを基本姿勢としています。

グローバルに事業を展開する横浜ゴムグループは、環境や法律、文化、習慣、経済などの面で、地域社会と良好な関係を築くことに努めています。

YOKOHAMAまごころ基金

従業員によって2016年に設立された「YOKOHAMAまごころ基金」は、基金の趣旨に賛同する従業員（会員）から積立金（毎月100円～の希望額）を集め、社会課題に取り組んでいる団体への支援や、災害発生時の義援金などの寄付を実施しています。寄付は、横浜ゴムからも基金と同額を寄付する「マッチングギフト」という仕組みを採用しています。

2022年12月末現在、加入率は全従業員数の約44%となりました。



2022年度支援実績

2022年の支援実績合計は、5,112千円（災害義援金を含む）となりました。

主な支援先は以下の通りです。

- ・特定非営利活動法人 フローレンス
- ・かながわ筋電義手バンク（県立神奈川リハビリテーション病院）
- ・公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
- ・ウクライナへの人道支援
- ・令和4年3月福島沖地震
- ・令和4年台風15号

地域社会の活性化への貢献

老君山プロジェクト（中国）への協賛

横浜ゴムグループの中国統括会社である優科豪馬橡膠有限公司（中国）では、2011年から継続的に中国の雲南省麗江市老君山自然保護区内で進めている生態系保護プロジェクト（老君山プロジェクト）の協賛を行っています。老君山は、2003年に世界自然遺産に登録された山岳地帯で、老君山プロジェクトは、これまで自然保護区内の森林伐採でしか生計を立てられなかった村を、「村バンク」を通じた融資などにより農畜産物生産経済へと転換することで、生態系を保護しようという取り組みです。

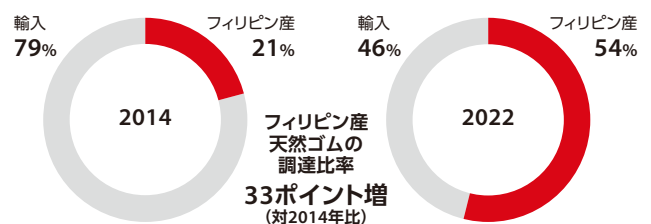


「村バンク」の様子

天然ゴムの地産地消を目指すローライゼーションプロジェクト（Yokohama Tire Philippines, Inc. (YTPI)（フィリピン））

フィリピンで乗用車用タイヤ・SUV用タイヤを生産しているYTPIでは、2014年、タイヤ生産に使用する原材料を現地で調達し、フィリピン経済の活性化を目指す「ローライゼーションプロジェクト」を開始しました。プロジェクトの継続的な推進により、2022年には全体の54%がフィリピン産天然ゴムとなっています。

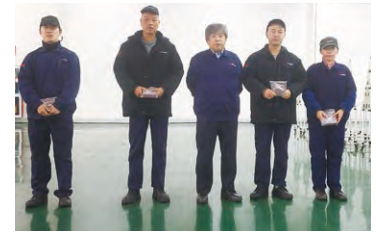
天然ゴムの調達割合（フィリピン産・輸入）



海外現地法人における多様な人材の活躍推進

杭州横浜ゴム製品有限公司(中国)では、全従業員141名の中で日本人は6名、管理職8名は現地スタッフが担っています。全社員数のうち女性比率は約3割で、出産休暇なども必要に応じて取得ができる仕組みがあります。課長以上の女性管理職も5割弱となっており、男女の分け隔てなく平等に昇格昇進の機会があります。採用においても杭州地区の方々を対象に広く募集

しており、採用の機会を均等に設けるとともに、社内の昇進昇格についても男女、出身地区の差別なく公正に行っています。



10年勤続社員表彰の様子(杭州横浜ゴム製品有限公司)

次世代育成支援

三重工場での環境教育の実施

三重工場では、当社社員が地元小学校を訪問したり工場に招いたりして環境授業を行っています。植樹の意義を紙芝居を用いて説明したり、外来植物のコマツヨイグサの抜根大会を開催したりなど、楽しみながら自然と環境に対する意識が高まるような取り組みを行っています。また、児童たちと共に海岸ゴミを清掃するなど、環境教育を通じた地域の環境保全活動にも力を入れています。

2022年2月に生物多様性に配慮した工場として「いきもの共生事業所認証®(ABINC認証)」を取得しました。



小学生を招いてのピオトープでの生き物観察会

学校への教育支援

横浜ゴムのインドにおけるタイヤ製造子会社 ATCTires Pvt. Ltd. Tirunelveli Plant (ATG-TN) では、複数の学校のインフラ整備やデジタル教育の支援を行っています。

また、横浜ゴムの中国におけるタイヤの製造・販売子会社の蘇州優科豪馬輪胎有限公司(CSZY)(中国)では、環境保護ウインターキャンプを開催しました。小学校の子どもと家族が参加し、「森を守る、紙を節約」の授業、種拾い、野鳥観察を行いました。子どもたちが環境知識を身につけて、環境意識を高めることを目指しています。



インドでの小学校への教育支援

災害復興支援

日本カーシェアリング協会へタイヤを寄贈

横浜ゴムは災害復興支援の一環として、乗用車用タイヤ計200本を一般社団法人日本カーシェアリング協会に寄贈しました。寄贈タイヤは、4月および11月に宮城県石巻市にある石巻専修大学で授業の一環として開催された「学生整備プロジェクト」において、被災地などでカーシェアリングやリースに利用される車両へ装着されました。

日本カーシェアリング協会は、仮設住宅や復興住宅などでの

非営利のカーシェアリング、地域振興のための車両貸し出しを行っています。また、自然災害によって車を失ってしまった方々へ車を一定期間無料で貸し出す生活再建支援も行っています。横浜ゴムは、同協会の活動に賛同し、乗用車用タイヤを寄贈する活動を2015年から行っています。



当社の乗用車用タイヤを装着する石巻専修大学の学生

今後の課題と対応策

海外拠点での操業拡大に伴い、新たな横浜ゴムグループ従業員に対する「行動指針」の浸透が課題となっています。また、事業活動に伴う経済的効果に加え、地域が抱える社会課題の解決に向けて、連携して活動ができる体制の構築も課題です。この

課題解決のため、ウィズコロナの新しい生活様式においても実施できるボランティア活動やYOKOHAMAまごころ基金を通じた活動を推進していきます。